愛知県美術館プレスリリース
2021 年 9 月

「第 25 回アートフィルム・フェスティバル」

章梦奇(ｼﾞｬﾝ･ﾓﾝﾁｰ)『自画像：47KM のスフィンクス』2017 年　提供：山形国際ドキュメンタリー映画祭

■会期　2021 年 10 月 20 日(水)～31(日)　＊10/25(月)休館
■会場　愛知芸術文化センター12 階アートスペース A（定員：90 名　＊新型コロナウイルスの感染拡大状況により変動する場合があります）
〒461-8525 名古屋市東区東桜 1-13-2　地下鉄東山線・名城線「栄」駅／名鉄瀬戸線「栄町」駅下車、オアシス 21 連絡通路利用徒歩 3 分
Tel.052-971-5511(代)　Fax.052-971-5604　https://www-art.aac.pref.aichi.jp/
■主催　愛知県美術館
■入場無料

＊感染症拡大防止策を実施のうえ開催いたします。
＊発熱や咳、くしゃみなど風邪の症状の見られる方や、体調のすぐれない方は、ご来場をお控えください。
＊ご来場の際は必ずマスクをご着用ください。未着用の方はご入場をお断りする場合があります。
＊ご入場前に検温を実施します。37.5℃以上の発熱のある場合はご入場をお断りします。
＊ご来場前のこまめな手洗いや、手指の消毒にご協力ください。
＊やむを得ない事情によりプログラムを変更する場合がありますが、あらかじめご了承ください。
＊場内で新型コロナウイルス感染症の感染が確認された場合は、当館ウェブサイトでお知らせします。ご自身でご来場日時の記録をお願いします。

愛知県美術館プレスリリース
2021 年 9 月

■主旨

「アートフィルム・フェスティバル」は、実験映画やビデオ・アート、ドキュメンタリー、フィクション等、従来のジャンル区分を越えて、独自の視点からプログラムを構成する特集上映会です。

今回の特集テーマは、〈映画の声を聴く〉。1895 年に誕生した映画は、音声を伴わないサイレントの表現として始まりました。今日私たちが親しんでいる、映像と音がシンクロした映画が成立するのは 1930 年代以降ですが、まだサイレント映画の 1920 年代に、映画は既に第一の黄金時代を迎えています。そのため映画ファンの中には、音声をあまり重視しない向きもありますが、一方でジョナス・メカスの日記映画やクリス・マルケルのエッセイ・フィルムのように、極めて独特で印象的なナレーションの作品もまた存在します。彼らから鈴木志郎康、キドラット・タヒミック、ジャン=リュック・ゴダール、ストローブ＝ユイレらを経て、草野なつかや小森はるか、ミヤギフトシ、章梦奇（ジャン・モンチー）ら近年の注目すべき作家までを取り上げ、音声表現の魅力を持つ映画の系譜をたどります。

公立文化施設が一年一本のペースで継続的に自主制作を行うユニークな企画として知られる「愛知芸術文化センター・愛知県美術館オリジナル映像作品」は、近年、映像作家や映画監督と美術家が競い合うように制作を担当していました。しかし、ここに「声」という視点を導入した時、こうした二項対立が解消し、両者が相互に通底するような、新しい景色が見えてくるのではないでしょうか。本特集が映像作品や映画の見方が変わる、一つの契機になれば幸いです。

なお本上映会は昨年度、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、開催を見送っているため、２年ぶりの開催となります。

■サブ・プログラム

小特集①〈水谷勇夫の映像世界〉

愛知を拠点に活動した画家・水谷勇夫(1922～2005 年)は、美術に留まらず、公演芸術や映画、民俗学研究など、複数の領域と関わりを持つ、マルチ・アーティスト的存在でした。昨年、当館で「小企画　水谷勇夫と舞踏」展を行い、土方巽、大野一雄らの舞踏家との交流にフォーカスしました。本上映会では、日本におけるドキュメンタリー映画のパイオニアの一人で『マリン・スノー － 石油の起源』(1960 年)などの作品で知られる野田真吉(1911～1993 年)が監督した、『水谷勇夫の十界彷徨』(1984 年)に焦点を当てます。当時、水谷が試みていた「凍結絵画」の制作過程を記録した本作は、映画完成の年に開催された「水谷勇夫展　十界之内　蠅と食卓」(於：日本画廊、東京)で上映されました。その後は正確な記録がないため不明ですが、ほとんど上映されておらず、本上映会は貴重な鑑賞機会となるでしょう。本編に使われなかった「アウトテイク」の上映や、水谷勇夫のご子息でアーティストの水谷イズルを招き講演を行い、この作品の謎に迫ります。

野田真吉『水谷勇夫の十界彷徨』(1984 年)制作風景（野田監督は、右から 3 人目。写真提供：水谷イズル）

小特集②〈出光真子の実験映画とビデオ・アート〉

令和元年度に当館が『アニムス Part1』『同 Part2』(1982 年)を収蔵した出光真子は、日本における先駆的な映像作家でビデオ・アーティストの一人として評価されています。彼女は、実験映画では繊細な感性で光をとらえた美しい映像が、ビデオ・アートでは画面内にモニターを設置し、登場人物とモニター内の映像が相互に関連づけられる独自の「マコ・スタイル」と呼ばれる表現が知られています。しかし彼女の映像表現は、フィルムとビデオで二つのスタイルが並走していたとは言い切れず、フィルム作品『At Any Place 4 ヨネヤマ・ママコ「主婦のタンゴ」より』(1978 年)が、人物を合成する手法において『アニムス』との関連を見せるといった、相互的な関係を認められるのです。本プログラムが、フィルムとビデオの垣根を越えた、新しい作家像を見出す契機となれば幸いです。なお当センターでの出光作品のまとまった上映は、開館記念事業の上映会「家族の映像」(1992 年)以来となります。

出光真子『アニムス Part1』1982 年

■上映スケジュール
10 月 20 日(水)
17:00
〈「オリジナル映像作品」の声①〉
森弘治『Case Study』2012 年、9 分、デジタル、第 21 作　★
田村友一郎『アポロンの背中』2016 年、20 分、デジタル、第 25 作　★
ミヤギフトシ『音と変身／Sounds, Metamorphoses』2020 年、58 分 30 秒、デジタル　第 29 作　★　計 87 分 30 秒
19:00
〈作り手たちの声①〉
野田真吉『くずれる沼　あるいは　画家・山下菊二』1976 年、38 分、DVD(ｵﾘｼﾞﾅﾙ 16mm)
鈴木志郎康『日没の印象』1975 年、24 分、Blu-ray(ｵﾘｼﾞﾅﾙ 16mm)　提供：イメージフォーラム　計 62 分

21 日(木)
16:45
〈写し出された声①〉
章梦奇(ｼﾞｬﾝ･ﾓﾝﾁｰ)『自画像：47KM の窓』2019 年、110 分、Blu-ray
19:00
〈写し出された声②〉
章梦奇(ｼﾞｬﾝ･ﾓﾝﾁｰ)『自画像：47KM のスフィンクス』2017 年、94 分、Blu-ray　提供：2 本とも、山形国際ドキュメンタリー映画祭

22 日(金)
15:30
〈「オリジナル映像作品」の声②〉
和田淳子『ボディドロップアスファルト』2000 年、96 分、デジタル、第 10 作　★
17:30
〈作り手たちの声②〉
ジョナス・メカス『ロスト・ロスト・ロスト』1975 年、180 分、Blu-ray(ｵﾘｼﾞﾅﾙ 16mm)　提供：株式会社ダゲレオ出版

23 日(土)
13:30
〈写し出された声①〉　再上映
章梦奇(ｼﾞｬﾝ･ﾓﾝﾁｰ)『自画像：47KM の窓』2019 年、110 分、Blu-ray

15:45
〈写し出された声②〉　再上映
章梦奇(ｼﾞｬﾝ･ﾓﾝﾁｰ)『自画像：47KM のスフィンクス』2017 年、94 分、Blu-ray　提供：2 本とも、山形国際ドキュメンタリー映画祭
17:45
〈作り手たちの声③〉
ジャン=リュック・ゴダール 『映画史』1988-98 年　※
第 1 章＝1A「すべての歴史」51 分、ＤＶＤ
第 2 章＝1B「ただ一つの歴史」42 分、ＤＶＤ　計 93 分

24 日(日)
小特集①〈水谷勇夫の映像世界〉
13:30
野田真吉『水谷勇夫の十界彷徨』1984 年、34 分、16mm、サイレント　制作：なごや絵学校　撮影：大塚正之　註：本作は過去の印刷物等で『水谷勇夫の世界・十界彷徨』とされていますが、ここでの表記は実際のプリントに準拠しました。
14:30
水谷イズル講演（60 分）
『水谷勇夫の十界彷徨』アウトテイク　1984 年、30 分、16mm
16:30
「野田真吉監督講演」於：なごや絵学校、1983 年、約 60 分、録音テープ
「小特集①」提供：水谷イズル

25 日(月)　休館

26 日(火)
16:15
〈「オリジナル映像作品」の声③〉
小森はるか『空に聞く』劇場版　2018 年、72 分、デジタル　★
18:00
〈「オリジナル映像作品」の声④〉
草野なつか『王国（あるいはその家について)』150 分版　2018 年、150 分、デジタル　★

27 日(水)
16:30
〈大野一雄の声〉

『ロングインタビュー』1993 年、100 分、ビデオ　撮影：NHK　○
18:30
〈大野一雄と慶人の声〉
ジャンニ・ディ・カプア『Antologia』Part1　46 分、 Part2　71 分　1999 年、ビデオ　○
計 117 分

28 日(木)
16:00
〈「オリジナル映像作品」の声⑤〉
草野なつか『王国（あるいはその家について)』64 分版　2017 年、64 分、デジタル　★
17:30
〈作り手たちの声④〉
キドラット・タヒミック『虹のアルバム〜僕は怒れる黄色'94』1994 年、175 分、ビデオ(ｵﾘｼﾞﾅﾙ 16mm)　※

29 日(金)
18:00
小特集②〈出光真子の実験映画とビデオ・アート〉①「私的映像の世界」
『おんなのさくひん』1973 年、10 分 50 秒、ビデオ
『At Yukigaya 1』1974 年、3 分、ビデオ(ｵﾘｼﾞﾅﾙ 16mm)
『At Santa Monica 3』1975 年、15 分 30 秒、ビデオ(ｵﾘｼﾞﾅﾙ 16mm)
『わたしのアメリカ、あなたのアメリカ』1980 年、10 分、ビデオ(ｵﾘｼﾞﾅﾙ 16mm)
『父の情景』1981 年、5 分 50 秒、ビデオ(ｵﾘｼﾞﾅﾙ 16mm)
『たわむれときまぐれと』1984 年、15 分 50 秒、ビデオ(ｵﾘｼﾞﾅﾙ 16mm)
『ざわめきの下で』1985 年、10 分 50 秒、ビデオ(ｵﾘｼﾞﾅﾙ 16mm)　計 71 分 50 秒
19:30
小特集②〈出光真子の実験映画とビデオ・アート〉②「アーティストとのコラボレーション」
『アニムス　パート 1』1982 年、13 分 10 秒、ビデオ　★
『アニムス　パート 2』1982 年、19 分 40 秒、ビデオ　出演：岸本清子　★
『At Any Place 4 ヨネヤマ・ママコ「主婦のタンゴ」より』1978 年、12 分 30 秒、ビデオ(ｵﾘｼﾞﾅﾙ 16mm)
『Someting Within Me』1975 年、9 分 30 秒、ビデオ(ｵﾘｼﾞﾅﾙ 16mm)　音楽：髙橋アキ
計 54 分 50 秒

30 日(土)
13:30
小特集②〈出光真子の実験映画とビデオ・アート〉③「ドキュメンタリーへの志向」

『サム、聞いているの？』(武満徹編、高松次郎編 A、同 B、富岡多恵子編)1974 年、60 分、ビデオ　＊画家・サム・フランシスに関するインタビュー
『Woman's House』1972 年、13 分 40 秒、16mm　　計 73 分 40 秒
「小特集②」作品提供：スタジオ・イデミツ（★を除く）
15:00
〈２つの『サン・ソレイユ』〉①
クリス・マルケル『サン・ソレイユ』1982 年、100 分、DVD(ｵﾘｼﾞﾅﾙ 16mm)　提供：株式会社パンドラ

31 日(日)
13:30
〈２つの『サン・ソレイユ』〉②
クリス・マルケル『サン・ソレイユ』日本語ナレーション版　1982 年、100 分、16mm
ナレーション：池田理代子
15:45
〈声の引用〉
ストローブ＝ユイレ『セザンヌ』1989 年、51 分、35mm　提供：神戸ファッション美術館
ストローブ＝ユイレ『ルーブル美術館訪問』2004 年、48 分、35mm　提供：アテネ・フランセ文化センター　＊２本ともジョワシャン・ガスケのテクストに基づく　　計 99 分

★愛知県美術館蔵　※アートライブラリー蔵　〇大野一雄ビデオ・ライブラリー（アートライブラリー蔵）

広報掲載に関する問合せ先

ご掲載記事について、日時・会場・電話番号などの基本情報確認のため、ゲラ刷りを次までFAX もしくはメールでお送りいただきますようお願い致します。

広報担当：田村　FAX: 052-971-5604　TEL: 052-971-5511（代）　email: art11@aac.pref.aichi.jp

上映会の内容に関する問合せ先

映像事業担当：越後谷　TEL: 052-971-5511（代）

記事等には、本上映会の問合せ先として以下をご掲載ください。

愛知県美術館
〒461-8525 名古屋市東区東桜1-13-2　TEL: 052-971-5511（代）　FAX: 052-971-5604
ウェブサイト http://www-art.aac.pref.aichi.jp/

記事作成に関するお願い

画像（図版）をご使用の際は、「配布用画像用キャプション」内の情報を必ずご明記ください。イベント開催時に会場を写真撮影される場合、フラッシュを伴う撮影はご遠慮いただきますようお願い致します。フラッシュによる撮影をご希望の方は、事前に担当までご相談ください。